# 海ごみ・若者班

池田森羅　理学系研究科　生物科学専攻
霜野莉沙　公共政策学教育部　公共政策学専攻
野副祐生　農学生命科学研究科　水圏生物科学専攻
穂満由紀　農学生命科学研究科　水圏生物科学専攻
矢崎誠　工学系研究科　システム創成学専攻

# 私たちの提言

若者を海のプラごみ削減の牽引力にするための方法

**若者を技術開発で支援するべきである！**

## 提言①　社会→若者

- 研究への金銭的な支援（補助金、奨学金）
- 起業支援（資金、プロジェクトマネージャーなどのメンターがつく）

## 提言②　若者⇆社会

- 企業と学生/研究者のマッチングをさせるシステム

# アジェンダ

1. 海洋プラごみ問題の現状・分析
2. 若者の牽引力を課題解決に
3. 現在の活動の調査・分析
4. 私たちの提言
5. 結論と今後の展望

# 1. 海洋プラごみ問題の現状・分析

Sea Turtle with Straw up its Nostril - "NO" TO PLASTIC STRAWS

92,430,589 回視聴 • 2015/08/11

68万 低評価 共有 保存 ...

YouTube, Sea Turtle with Straw up its Nostril -"N" TO PLASTIC STRAWS https://www.youtube.com/watch?v=4wH878t78bw

# 海洋プラスチックごみ問題とは

- 世界で年間800万トン、日本で2万〜6万トン（環境省）
- 内訳：ポイ捨て、不適正処理、タイヤの摩耗、漁具など（UNEP、下表）

| Micro- or macro-plastic | Source of loss | Share of total loss [%] | | | | | | | | | | | Total loss [Mt] |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | NAFTA (incl. rest of North America) | Western Europe | W.Japan | Central Europe & CIS | Asia (excl. Japan, India, and China) | Africa | Latin America & Caribbean | Oceania | India | China | Middle East | |
| Macroplastics | Loss of plastic to environment from mismanaged waste treatment | 0% | 0% | 0% | 0% | 13% | 24% | 23% | 0% | 10% | 10% | 19% | 3.87 |
| Macroplastics | Loss of plastic from littering | 11% | 17% | 3% | 7% | 18% | 6% | 18% | 1% | 3% | 7% | 9% | 0.80 |
| Macroplastics | Fishing nets and other losses of fibers related to fishing | Global estimate, no information about the regions where losses occur | | | | | | | | | | | 0.60 |
| Microplastics | Microbeads lost to environment from use of cosmetics and personal care products | 10% | 3% | 1% | 6% | 17% | 16% | 8% | 1% | 9% | 22% | 6% | 0.01 |
| Microplastics | Loss of rubber from tyre abrasion | 20% | 13% | 2% | 12% | 14% | 3% | 6% | 1% | 6% | 18% | 5% | 1.41 |

- マクロ・マイクロプラスチックに分けられる
  細かくなりすぎたマイクロプラスチックは測定不能（IGES取材）
- プラスチックは生物体内に蓄積し消化を妨げる（東洋経済）

# 2. 若者の牽引力を課題解決に

# 若者の具体例

・**グレタ・トゥーンベリ：** スウェーデンの環境活動家
→環境問題や地球温暖化対策に力を入れている
→ **気候変動が緊急事態になると世界的に訴える**

・**エマ・ワトソン：** 女優、世界で最も影響力のある100人、UN Women親善大使、ケリング社取締役＆サステナビリティ委員会会長
　　→**女性の権利や環境問題に対する活動を多く実施**

・**ボイヤン・スラット：** NPO法人オーシャンクリーンアップ創業者
→海洋ごみを一掃する活動行う
→”太平洋ごみベルト”でのごみの除去に挑み，
**実現不可能だと言われていたアイデア**を実行

**若者の活動は社会的に影響力がある!!**
**若者が行動すること・・・重要!!**

# 若者とは

## 若者と他の世代の違い

・体力、有効に使える時間がある
・トレンドに敏感である
・将来に対しての可能性がある/夢や目標に向かう活力がある

## 最近の若者の特徴

**・まじめ, 素直**

まじめ化する大学生と学生の「生徒化」・大学の「学校化」｜アルカディア学報｜私学高等教育研究所｜日本私立大学協会 (shidaikyo.or.jp)
岩田弘三　武蔵野大学人間科学学部　2013年1月　大学生調査の結果

**・受け身**

**・仲間意識が強い**(同質な人とのコミュニケーション力高)
**・未熟な対人関係力**(異質な人とのコミュニケーション力低)

(引用：現代の若者たちの人間関係, 木村晶子, 人間生活研究,　第23号, 2016年, 3月)https://core.ac.uk/download/pdf/72760402.pdf

# 若者とは

## 最近の若者の力

・同じコミュニティ内での拡散力
・自分ごとになった時の行動力
・与えられた課題の遂行能力
（異なるコミュニティ同士の関係の構築は薄い、自主性がない）

↓

**大人や社会がそれを踏まえて活かすべき**

2.　若者の牽引力を課題解決に

# 若者は環境意識が高い？

・**「SDGs」意識が高い**
(Yamane, T. & Kaneko, S., Clean. Prod., 2021)

・**「海洋ごみ」認知が低い**
(日本財団　年代別海洋ごみに関する意識調査, 2018)

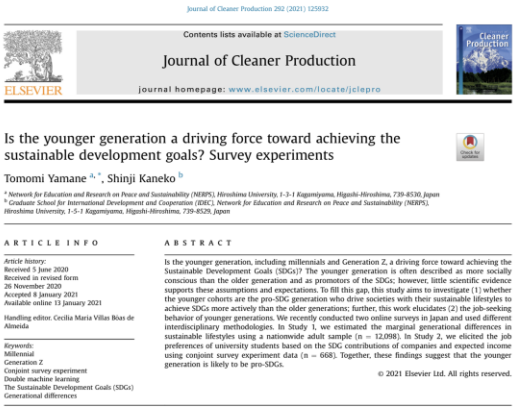
・「**環境意識**」は高いが, うわべだけ
(ネクスト・ノーマル., マッキンゼー., 東洋経済新聞社)

→若者は環境意識に敏感だが、

　表層だけにしか興味がない可能性

→若者を行動させることができれば

　海洋ごみ問題の解決につながる？


Journal of Cleaner Production 292 (2021) 125932

Contents lists available at ScienceDirect

Journal of Cleaner Production

journal homepage: www.elsevier.com/locate/jclepro

Is the younger generation a driving force toward achieving the sustainable development goals? Survey experiments

Tomomi Yamane [a,*], Shinji Kaneko [b]

[a] Network for Education and Research on Peace and Sustainability (NERPS), Hiroshima University, 1-3-1 Kagamiyama, Higashi-Hiroshima, 739-8530, Japan
[b] Graduate School for International Development and Cooperation (IDEC), Network for Education and Research on Peace and Sustainability (NERPS), Hiroshima University, 1-5-1 Kagamiyama, Higashi-Hiroshima, 739-8529, Japan

ARTICLE INFO

*Article history:*
Received 5 June 2020
Received in revised form
26 November 2020
Accepted 8 January 2021
Available online 13 January 2021

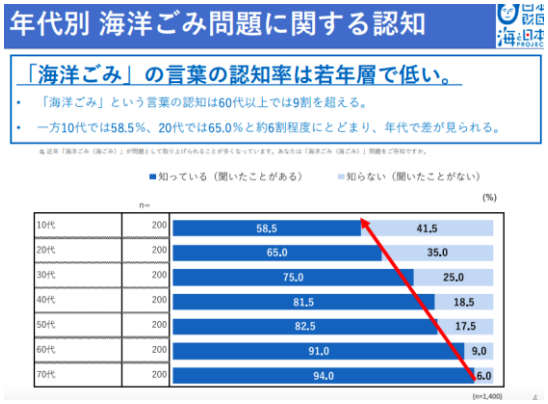
Handling editor. Cecilia Maria Villas Bôas de Almeida

*Keywords:*
Millennial
Generation Z
Conjoint survey experiment
Double machine learning
The Sustainable Development Goals (SDGs)
Generational differences

ABSTRACT

Is the younger generation, including millennials and Generation Z, a driving force toward achieving the Sustainable Development Goals (SDGs)? The younger generation is often described as more socially conscious than the older generation and as promotors of the SDGs; however, little scientific evidence supports these assumptions and expectations. To fill this gap, this study aims to investigate (1) whether the younger cohorts are the pro-SDG generation who drive societies with their sustainable lifestyles to achieve SDGs more actively than the older generations; further, this work elucidates (2) the job-seeking behavior of younger generations. We recently conducted two online surveys in Japan and used different interdisciplinary methodologies. In Study 1, we estimated the marginal generational differences in sustainable lifestyles using a nationwide adult sample (n = 12,098). In Study 2, we elicited the job preferences of university students based on the SDG contributions of companies and expected income using conjoint survey experiment data (n = 668). Together, these findings suggest that the younger generation is likely to be pro-SDGs.

© 2021 Elsevier Ltd. All rights reserved.



# 3. 現在の活動の調査・分析

# 若者の海ごみ関連活動の具体例

**以下の5件にインタビューしました**

- NPO 地元の海を守ろうの会 (代表：布施さん)
- コスプレ de 海ごみゼロアワード2021
- プロジェクトマナティ
- NPO法人 OWS
- IKKAKU

**他にも…**

- Litterati Japan
- 高校生主催 新感覚ごみ拾いイベント ~トラッシュロワイヤル~
- Pure sea water
- うみさんぽ

# 有識者へのインタビュー実施

## 布施ともえさん　(慶應義塾大学の学生)

**『NPO　地元の海を守ろうの会』の立ち上げ**

・石川県のビーチクリーン活動団（100人の規模）

・後援: 市役所・ライオンズクラブ・中日新聞

・地元の塾長へ引き継ぎを依頼し、今後も活動を継続

(布施さんのFacebook)

**『NGO　Sustainable Ocean Alliance (SOA) Japan 』に参加**

・カリフォルニア発のNGO　日本支部

・教育面から海ごみ問題にアプローチ

　ー ワークショップ

　ー イベント企画

　ー 資金提供（アメリカ本部から出資）

(SOA Japan のホームページ)

# 有識者へのインタビュー実施

## コスプレde海ごみゼロ (世界コスプレサミット)

『アワード』『大作戦』『解放区』

- コスプレイヤーの持つ表現力、社会的貢献意欲、発信力を活用
- コスプレ文化のイメージアップ
- アニメとのコラボやイベントから、海ごみの「自分ごと化」を図る

## プロジェクトマナティ (二宮あみさん, IKKAKUの傘下のプロジェクト)

ワンコインで準備なし、片付けなしのクリーンアップ

- 「パートナー」からゴミ袋を購入→ゴミ拾い→「パートナー」がゴミを処理
- 地域交流、観光産業との協力体制
- 企業のCSR研修、修学旅行への組み込みが可能

# 有識者へのインタビュー実施

## OWS　（NPO法人）

**『海洋ごみプロジェクト』**

・子供から大人までを対象とした写真パネルの貸し出しによる学習補助

**『干潟保全プロジェクト』**

・美化を目的とせず人工物のみを干潟から除去

**『海の子プロジェクト』**

・子供達を自然と触れ合わせることで, 自然の大切を理解させる

## IKKAKU（日本財団、JASTO、株式会社リバネスによる合同プロジェクト）

**『超異分野チーム』による海ごみ削減を実現するビジネス**

・ベンチャー企業をはじめ学術機関、町工場、大企業、中小企業が連携して革新的な技術を開発し、事業化をめざす

・現在3チームが活動中

# インタビューで聞けたこと

・現状では気軽にできる楽しい単発のプロジェクトが多い

・インセンティブがあって初めて興味のない人が参加する

・どのように資金を調達するかが課題

・法律などでトップダウンで決めない限り

プラスチック問題は大きく片付かない

・不適正処理、タイヤの話はあまり出てこなかった

# 現在行われている政策

海岸漂着物処理推進法改正 (2018.6.15成立)
第４次循環型社会形成推進基本計画(2018.6.19閣議決定)
海岸漂着物等地域対策推進事業　などの他

**G20 Osaka Blue Ocean Vision 2019：**
日本は2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロにまで削減することを目指す「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」を提案。首脳間で共有

**海洋プラスチックゴミ対策アクションプラン：**
8つの分野の取り組み。プラスチックの有効利用＋これ以上増やさない

**プラスチック資源循環法**（2021年6月国会で可決、2022年4月から施行）：
削減対象の12品目について、年間5トン以上提供の小売店、宿泊施設、飲食店などに対して削減に向けた取り組みの義務化

**バイオプラスチック導入ロードマップ：**
バイオプラスチックの導入方針と国の施策を提示。

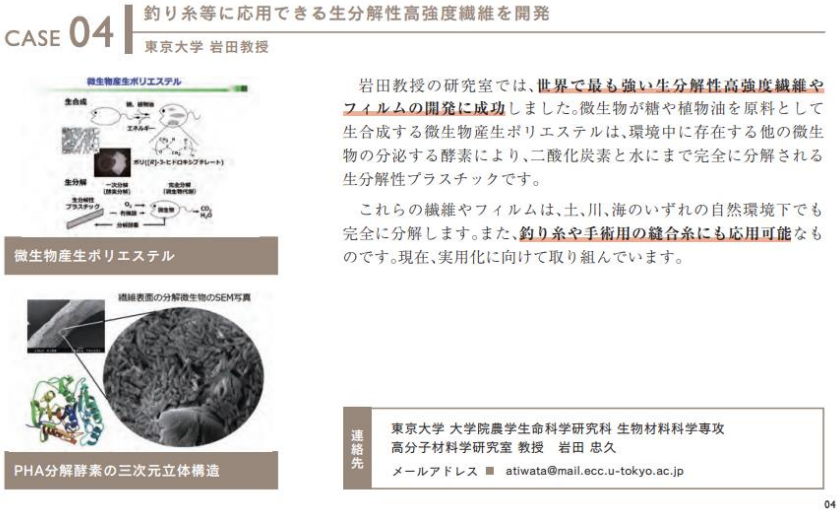
# 現在行われている政策

**海洋プラスチックゴミ対策アクションプラン　取り組み事例**

・「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス(CLOMA)」：
3R+Replace（製造・利用関係企業のアライアンス）

・「海洋プラスチック官民イノベーション協力体制」企業や団体、研究者

**→ここ数年でプラスチックゴミに対する制度は整いつつある。**
**実用化はまだ活発ではなく、始まったばかり。**



CASE 04　釣り糸等に応用できる生分解性高強度繊維を開発
東京大学 岩田教授

微生物産生ポリエステル

PHA分解酵素の三次元立体構造

岩田教授の研究室では、**世界で最も強い生分解性高強度繊維やフィルムの開発に成功**しました。微生物が糖や植物油を原料として生合成する微生物産生ポリエステルは、環境中に存在する他の微生物の分泌する酵素により、二酸化炭素と水にまで完全に分解される生分解性プラスチックです。

これらの繊維やフィルムは、土、川、海のいずれの自然環境下でも完全に分解します。また、**釣り糸や手術用の縫合糸にも応用可能**なものです。現在、実用化に向けて取り組んでいます。

連絡先
東京大学 大学院農学生命科学研究科 生物材料科学専攻
高分子材料学研究室 教授　岩田 忠久
メールアドレス ■ atiwata@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

04

CASE 06　紙からうまれた未来の素材「シールドプラス®」
日本製紙株式会社

「シールドプラス®」を用いた紙製パッケージ

「シールドプラス®」採用事例（株式会社長良園「もっとやさしい鶏飼せんべい」個包装）

従来は、内容物の鮮度を保持するバリア性が必要な場合の軟包装材料としてはアルミ・プラスチックのみが選択されていましたが、「シールドプラス®」の開発により**紙製パッケージという新たな可能性を生み出すことに成功**しました。これは、水系塗工技術を活用しバイオマス素材の紙に高いバリア性を付与したものになっています。

具体的な用途としては、シリアル食品の容器やお菓子の袋などで実用化されています。

連絡先
日本製紙株式会社 パッケージング・コミュニケーションセンター
技術調査役　内村 元一
メールアドレス ■ g.uchimura@nipponpapergroup.com

05

# 期間ごとの海洋プラごみ問題の対策

短期　（例：コスプレ・マナティ・SOA）

・ゴミ拾い（インセンティブをつけると人が集まる：コンサートチケット等)

・教育的ワークショップ

・教育的広告、動画の製作

・SNS発信による啓発

中期　（例：IKKAKU）

・研究への金銭的な支援（補助金、奨学金)

・起業支援（資金、プロジェクトマネージャーなどのメンターがつく)

・企業と学生/研究者のマッチングをさせるシステム

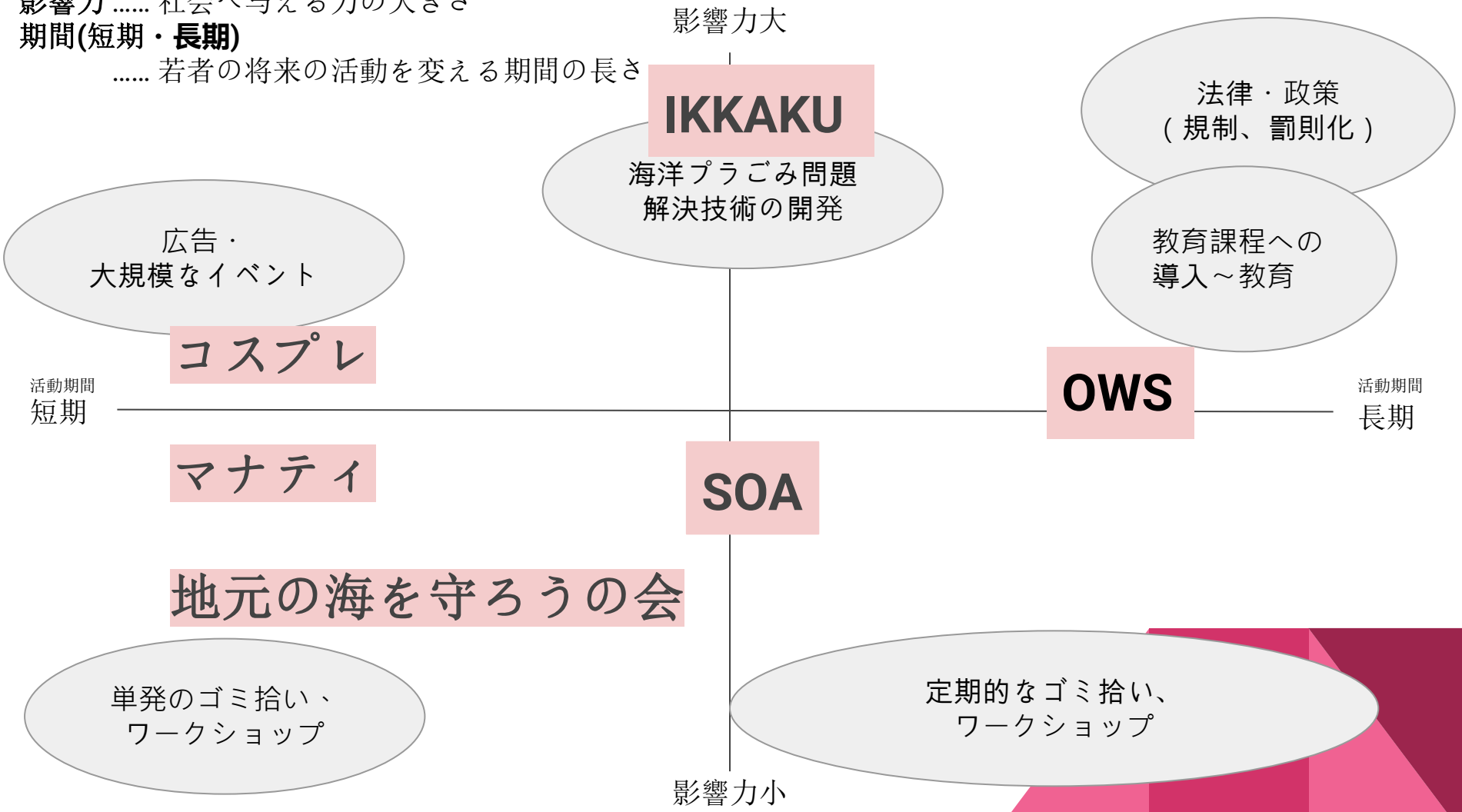
長期　（例：OWS）

・教育（定期的）、教育課程に入れる

・法律による規制、政策

# 現在の活動団体と期間ごとの活動内容のマッピング

**影響力** …… 社会へ与える力の大きさ
**期間(短期・長期)**
…… 若者の将来の活動を変える期間の長さ



# 4. 私たちの提言

# 海洋プラごみ問題に対する提言

短期　（例：コスプレ・マナティ・SOA）

・ゴミ拾い（インセンティブをつけると人が集まる：コンサートチケット等）

・教育的ワークショップ

・教育的広告、動画の製作

・SNS発信による啓発

中期　（例：IKKAKU）

・**研究への金銭的な支援**（補助金、奨学金）

・**起業支援**（資金、プロジェクトマネージャーなどのメンターがつく

・**企業と学生/研究者のマッチング**をさせるシステム

影響力が大きく
若者の力が活かせる
まだ活発ではない活動

長期　（例：OWS）

・教育（定期的）、教育課程に入れる

・法律、政策

# 私たちの提言（仮説、インタビューで検証）

若者が本問題解決の為に活躍する必要があるとの前提の元、以下の2つの方向性で目指す。

## 提言①　社会→若者

- **研究への金銭的な支援**（補助金、奨学金）
- **起業支援**（資金、プロジェクトマネージャーなどのメンターがつく）

## 提言②　若者⇆社会

- **企業と学生/研究者のマッチングをさせるシステム**

# 提言①　社会→若者

- **金銭的支援（研究への金銭的な支援（補助金、奨学金））**

体力や有効に使える時間があるが、資金は少ない。

→金銭的な支援を充実させる

本施策を実行する事から活かせる「若者の特徴」
・将来の長期間を研究に費やすことが可能である
・将来に対しての可能性がある/夢や目標に向かう活力がある

- **起業支援**

目標や意思はあるが、施策を実行する機会や能力がない。

→メンターなど教育的サポートも資金も自立まで手厚く支援

本施策を実行する事から活かせる「若者の特徴」
・体力、有効に使える時間がある
・リスクを抱えるチャレンジを、比較的行いやすい
・将来に対しての可能性がある/夢や目標に向かう活力がある

# 提言①　社会→若者（具体例）

## ● 金銭的支援（研究への金銭的な支援（補助金、奨学金））

- 東京大学と国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が共催。
- 研究に熱意のある学生が無償で資金を獲得できるような仕組みづくりを行う。
- 海洋ゴミ問題の枠組みを更に細分化して資金を作る等の案も考えられる。

## ● 起業支援

- プロジェクトIKKAKUのように、実際に環境問題解決に取り組むベンチャー企業を立ち上げた経験を持つ方に講演会を開いて頂く。
- メンターとして連絡が取れるような環境を大学や研究機関に整える。

# 提言②　若者⇆社会

- **企業と学生/研究者をマッチングさせるシステム**

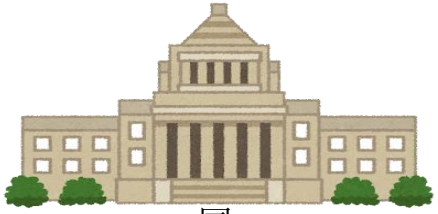
異なるコミュニティ同士の関係の構築が薄い

→**交流プラットフォーム提供**　（就職活動におけるマイナビをイメージ）

若者
（学生・研究生）

技術やシステムを使ってくれる企業を探す

有能な若手研究者・有用な技術を探す



国

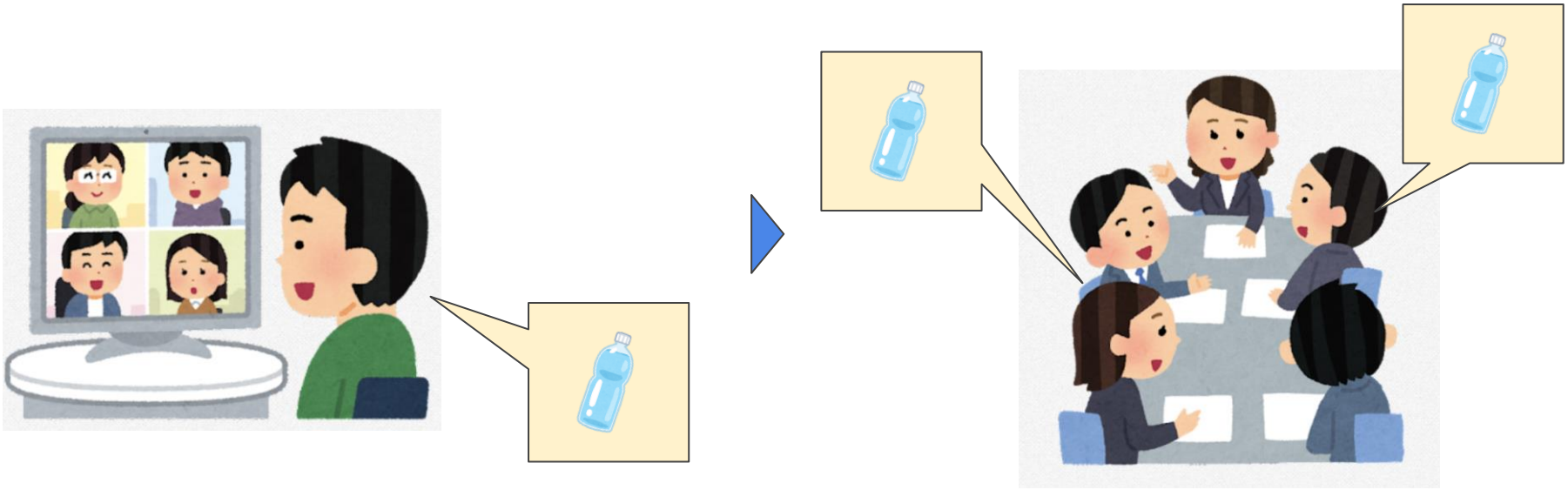
海洋プラスチックに関する課題の提供

企業

本施策を実行する為に活かせる「若者の特徴」
・体力、有効に使える時間がある
・デジタルに精通している
・将来に対しての可能性がある/夢や目標に向かう活力がある

# 提言②　若者⇆社会（具体例）

- 企業と学生/研究者をマッチングさせるシステム



- ペットボトルの問題解決に向けて取り組みをする事業者と研究者が集うプラットフォームを作成する。
- 研究者は「必要な資金や提供できる技術」、企業は「提供できる資金や獲得したい技術」を相互に提示する。
- マッチングが成立する可能性がある際には、オフラインでの対面も可能な環境を整える。

# 考えられる障壁と対処

①社会→若者

・若者の支援の財源はどこか
→ **企業の支援＋国や自治体の支援**
・研究が長期的でいつ成果が出るかわからない
→ 成果を出すため、報告や修正も含めた**評価面でのサポートを厳しく行う**
（民間企業のプロジェクトの評価基準を採用する）

②若者⇆社会

・海洋プラごみに特化してマッチングに十分な企業や人が集まるか
→ 海ごみ問題は多くの分野と隣接しているため
**他の環境問題や分野も絡める必要**がある。

# 5. 結論・今後の展望

# 結論

- 海洋プラごみ問題は**多方面からアプローチ**するべき。

- 短期、単発である**プラごみの使用削減（予防）と回収率の向上（対処）は大規模に、長期的に続けていくべき**。

- プラの代替になる材料の開発や、回収の効率を上げるような**技術開発に投資していくべき**。

- これらに対して最近の**若者の力を環境問題解決に生かすには、**

  **人同士をつなげて活動する場所や**

  **プラットフォームを社会が提供するべき**。

# 今後の展望

- 国内での認知はもちろん、国際的な協力が必要。
  →海は様々な地域・国家に共有されているものなので、現在行われている国同士の大まかな取り決めや、日韓での地域ゴミ拾いイベントなどを、より具体的に拡大して行うべき。

- グローバルやデジタルにより馴染みのある若者が積極的になり国や自治体だけでなく広範囲で共に活躍することが期待される。

# 参考文献


・YouTube, Sea Turtle with Straw up its Nostril -”N” TO PLASTIC STRAWS https://www.youtube.com/watch?v=4wH878t78bw

・東洋経済　https://toyokeizai.net/articles/-/302791?page=6

・UNEP　2018 Mapping of global plastics value chain and hotspots - final version r181023.pdf (gefmarineplastics.org)

・環境省　バイオプラスチック導入ロードマップ　http://www.env.go.jp/recycle/plastic/bio/pdf/mat21012610_1.pdf

・環境省　プラスチック資源循環法　https://www.env.go.jp/recycle/plastic/pdf/gaiyou.pdf

・環境省　「海洋プラスチック官民イノベーション協力体制」取り組み事例　https://www.env.go.jp/earth/20190613brochure.pdf

・CLOMA（クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス）　https://cloma.net/

・外務省　「マリーン（MARINE）・イニシアチブ」　https://www.mofa.go.jp/mofaj/ic/ge/page25_001919.html

・東大IPC 1st round　https://www.1stround.jp/

・現代の若者たちの人間関係, 木村晶子, 人間生活研究, 第23号, 2016年, 3月）https://core.ac.uk/download/pdf/72760402.pdf

・岩田弘三　武蔵野大学人間科学学部　2013年13大学学生調査の結果　まじめ化する大学生と学生の「生徒化」・大学の「学校化」｜アルカディア学報｜私学高等教育研究所｜日本私立大学協会 (shidaikyo.or.jp)

ありがとうございました

# 旧アジェンダ

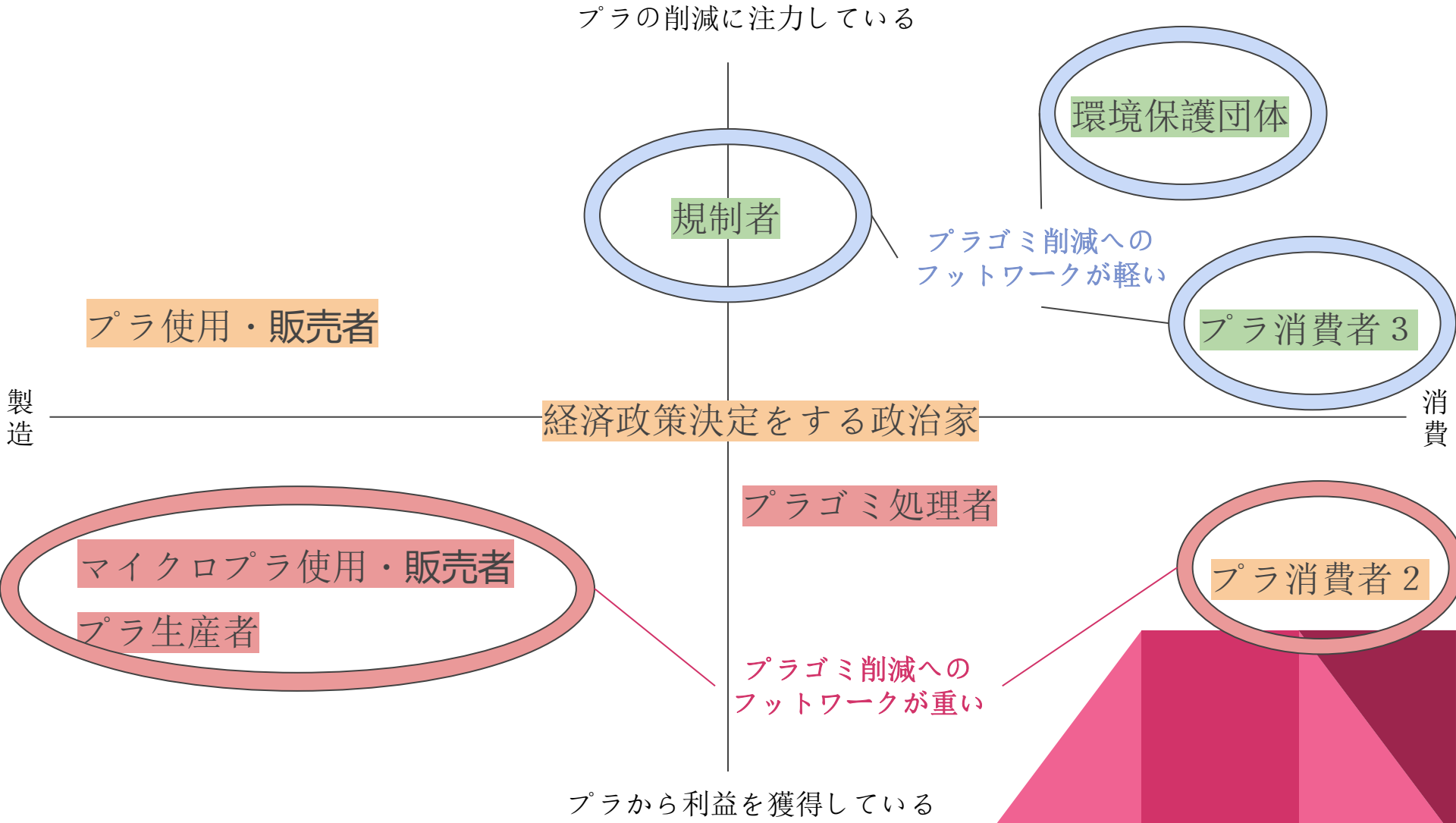
1. 海洋プラごみ問題の現状・分析
2. 現在の施策の調査・分析
3. 若者の牽引力を課題解決に
4. 私たちの提言
5. 結論と展望

# 海ごみ問題に関わるアクター（ステークホルダー分析）

| プラスチック（プラ）との関係性 | アクター | 具体例 |
|---|---|---|
| プラにより利益を得ている人 | プラ原料販売者 | プラスチックの原料を生産・販売する |
| | プラ生産者 | プラスチックを生産する |
| | マイプロプラを含む消費財の開発企業 | 農薬や香料、柔軟剤、医薬品、化粧品等を開発 |
| | プラ消費者１（漁業従事者） | プラの漁網により利益を得ている |
| | タイヤ消費者（運転手） | タイヤの摩耗を起こす |
| プラの代替・努力ができる人 | ゴミ処理者 | プラスチックゴミを処理する |
| | プラ使用・販売者 | プラスチック商品を売る |
| | 経済政策決定をする政治家 | 産業のメリットとデメリットの総コスト＋風評 |
| | プラ消費者２（環境意識低） | 分別しない、ポイ捨てをする |
| 現在進行形で問題に取り組んでいる人 | 規制者（環境庁・自治体） | 法律、政策、条例により規制を行う |
| | 環境保護団体（企業・NPO法人） | 環境保護活動を行う |
| | プラ消費者３（環境意識高） | エコな商品を選択、正しく廃棄、リサイクル |

ステークホルダー分析 (消費-製造、利益の大-小)

# プラゴミ削減へのフットワークの重さに差がある



# 若者の海ごみ関連活動の具体例

**「Litterati Japan (代表：二宮さん)」**

--- 海ごみ拾う ⇒ 写真を撮る ⇒ SNSに掲載　**(情報に敏感な若者対象)**

**「高校生主催 新感覚ごみ拾いイベント ~トラッシュロワイヤル~」**

--- ごみのポイ捨てゲームを企画 **(ゲーム感覚で楽しくできる 若者向け)**

**「コスプレ de 海ごみゼロアワード2021」**

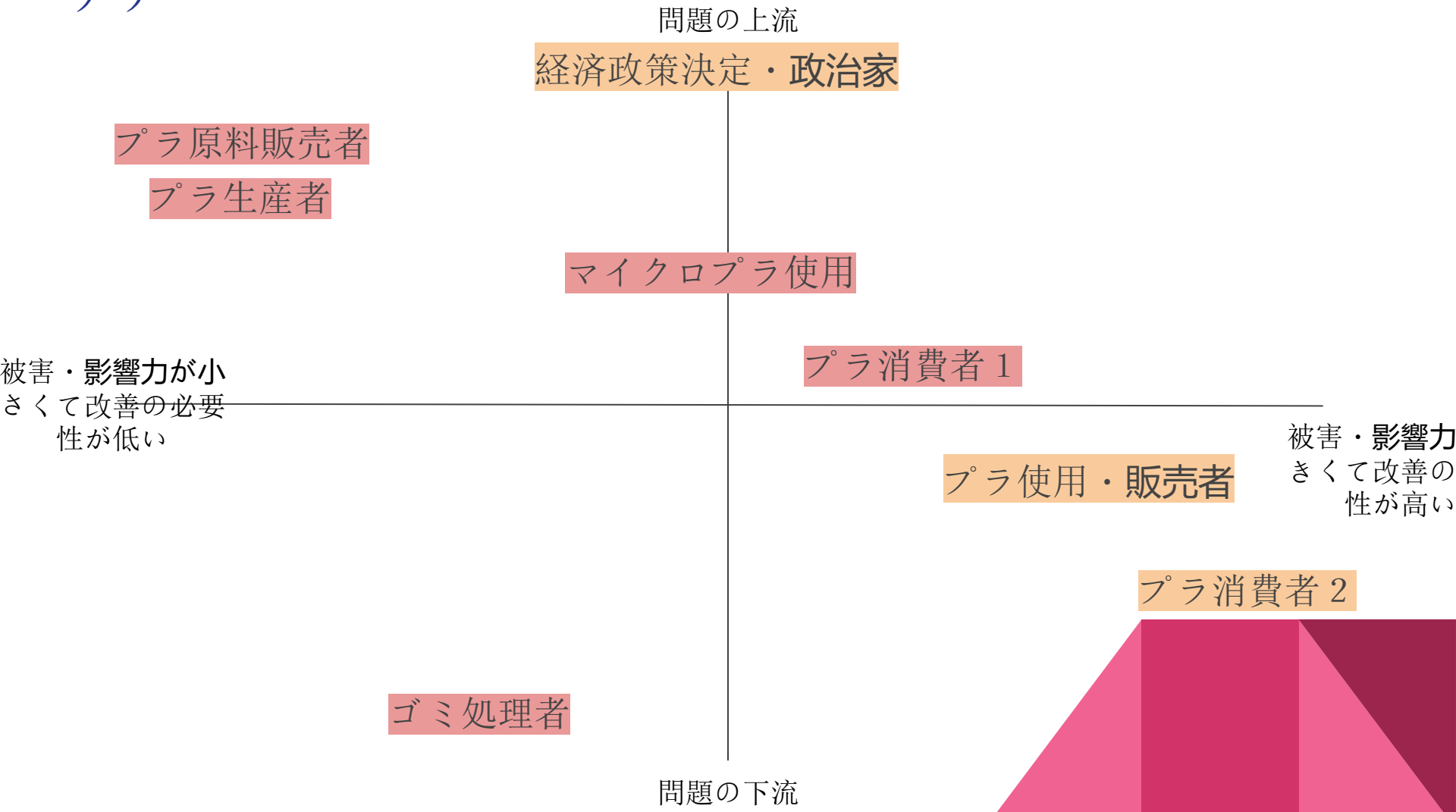
--- コスプレイヤーによる海洋ゴミ削減に繋がる動画募集

⇒ SNSに投稿　**(若者のみならず、家族連れで参加)**

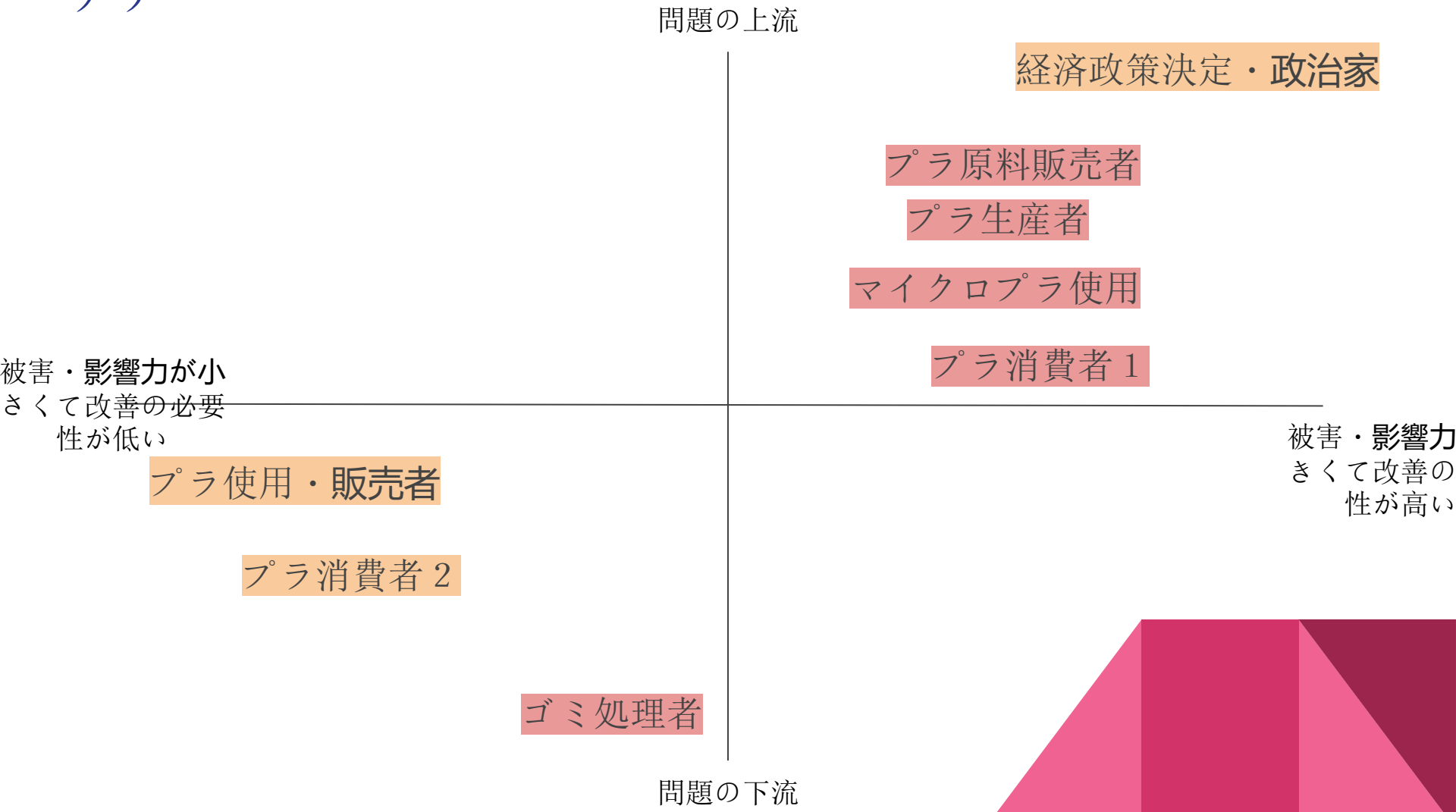
**「Pure sea water」**--- 街のごみ拾いや海岸清掃

**「NPO 地元の海を守ろうの会 (代表：布施さん)」**

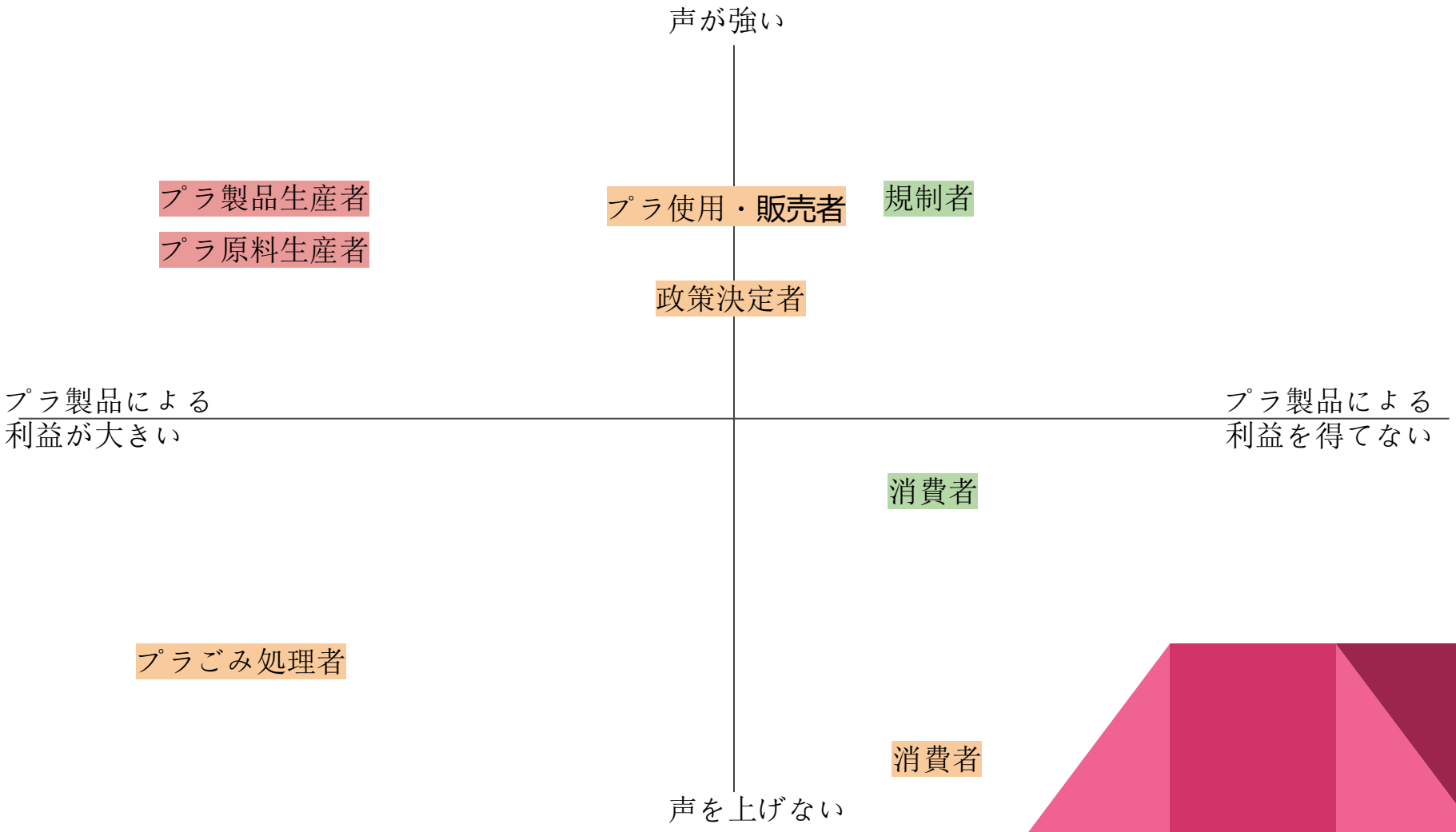
# （霜野）問題のステークホルダー分析（短期アプローチ）



# （霜野）問題のステークホルダー分析（長期アプローチ）

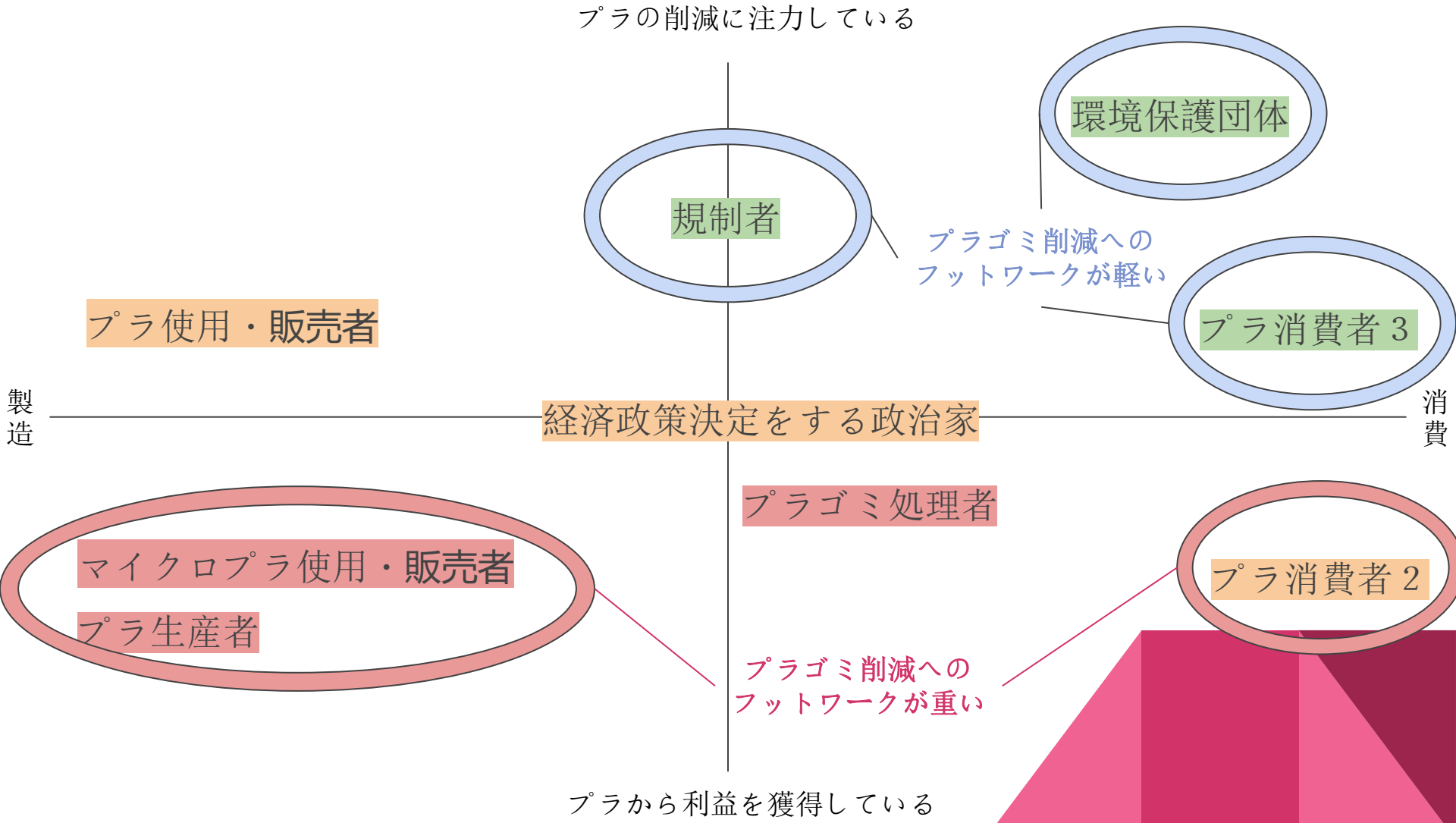


# （穂満）ステークホルダー分析



ステークホルダー分析 (消費-製造、利益の大-小)

# プラゴミ削減へのフットワークの重さに差がある



# 私たちの提言（仮説、インタビューで検証）

タイヤ、漁業の網から発生する海洋プラスチックの削減を以下の方向性で目指す

**提言①　研究への金銭的な支援**（補助金、奨学金）

**提言②　起業支援**（資金、プロジェクトマネージャーなどのメンターがつく）

**提言③　企業と学生/研究者のマッチングをさせるシステム**

＜アジア低炭素化センター、廃棄物管理についてのインタビュー＞

住民がごみを回収ステーションまで持ってこない

回収サービスの不備でステーションがあふれる

途上国では氾濫のたびに路上のごみが川を伝って海に流出する

→ 氾濫が恒常化するインフラの不備

　発展途上国においては、タイヤと漁網の網以外についても考慮する必要性

# ① 金銭的支援（研究への金銭的な支援（補助金、奨学金）

自分ごとになった時の行動力を利用

# ② 起業支援

自主性がない→**メンターなど教育的サポートも資金も自立まで手厚く支援**

若者の特徴
・体力、有効に使える時間がある
・トレンドに敏感である
・将来に対しての可能性がある/夢や目標に向かう活力がある

最近の若者の力
・同じコミュニティ内での拡散力
・自分ごとになった時の行動力
・与えられた課題の遂行能力
（異なるコミュニティ同士の関係の構築は薄い、自主性がない）

# ③ 企業と学生/研究者をマッチングさせるシステム

異なるコミュニティ同士の関係の構築が薄い

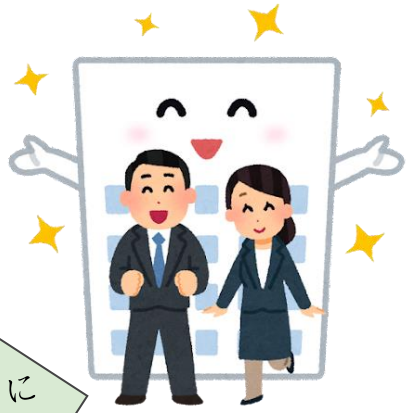
→**交流プラットフォーム提供**　（就職活動におけるマイナビをイメージ）

若者
（学生・研究生）

技術やシステムを使ってくれる企業を探す

有能な若手研究者・有用な技術を探す

海洋プラスチックに関する課題の提供



企業

若者の特徴
・体力、有効に使える時間がある
・トレンドに敏感である
・将来に対しての可能性がある/夢や目標に向かう活力がある

最近の若者の力
・同じコミュニティ内での拡散力
・自分ごとになった時の行動力
・与えられた課題の遂行能力
（異なるコミュニティ同士の関係の構築は薄い、自主性がない）